

歳末の長浜の歴史探訪

2011. 12. 16

環境科 長 俊次

12月は1班の担当月である。半年も前から訪問先を検討した。今回は順番としてバス旅行である。大阪から日帰りバスで行けるところは大概みんな行っている。どこかまだみんなで行っていないところはないか。洗い出したところ長浜市があった。著名な歴史の町であるが環境科としてまだ一緒に行っていない。私個人としては、20年前、5年間仕事で暮らしたことがあるので土地勘もある。折りしもNHKでは大河ドラマの「江」を放映している。長浜市に尋ねてみたら「お江」関連の展示会も実施しているという。ほかにも歴史の町だけあって見るべきところが多い。1班の皆さんに諮ってみたらOKの賛同を得た。

バスの発着時間などを計算して、歴史探訪するところを、長浜城、曳山博物館、お江・茶々・初の合同展示会場などを見学すれば夕方になると予想した。バス会社にも予約した。ところがその後、詳しい計画書を作る段階になって「お江」関連の展示会は11月いっぱい終了するという。「お江」の放送が11月で終了するのにあわせて展示会も終わるのだという。残念だったが環境科の行事計画はすでに11月まで決定している。急遽予定を変更して見学する場所を一部変更することにした。幸い、見学するところが多いので時間の関係もあり、鉄道スクエアを新たに追加することにした。鉄道スクエアはJRの駅舎では日本最古の建物で、最近あらたに機関車の展示会場と鉄道文化館が加わった。一見の価値があるところだ。長浜城は戦後観光用に建設されたもので歴史的価値はないが、中には長浜市の歴史記念物、特に長浜市は堺市と並んで戦国時代から国友鉄砲の生産地として全国に名が知られており、その資料が豊富に並んでいる。城の天守閣からは長浜市が360度展望できる。曳山博物館は秀吉の時代からなんと400年にわたり絶えることなく続いた子供歌舞伎の美しい山車や関連する資料が展示されている。これも一見の価値があるところだ。こうして環境科の皆さんに周知した。

当日の参加者は31名。厳寒の時期なので当初の予想より参加者は減ったが30人を越えた。出発の朝、大阪は快晴だったが、滋賀県に入るにつれて次第に曇天になり、長浜に到着すると冷たい小雨が降り出した。やがて雪に変わる。弁当忘れても傘を忘れるなという長浜の諺どおりの天気となる。お城を見学したあとはバスの中で昼食。暖房がきいて暖かい。現地のボランティアガイドの方に特にお願いして、バスの中でお江関連の解説をカラー写真を用いてしていただいた。

鉄道スクエアでは新たに加わった蒸気機関車と電気機関車を機関室まで上って見学できた。北陸から長浜までの鉄道は東海道幹線よりも早く完成していたこと、駅の隣には大津行きの汽船が出ていたことも初めて知った。向かいの慶雲館ではまだ盆梅展は始まっていなかったが、大きな鉢植えの梅が庭に並んでいた。

曳山博物館は高山市の博物館を思いおこさせる。歴史の重みである。その後、黒壁ガラス館を見学。ベネチアのムラーノ島のガラス生産工房を小さくしたようなところだ。沢山のガラス製品が並んでいる。黒壁の関連施設が近くに20店ばかりも並んでいる。土産物も沢山売られていた。当日は歴史探訪の有意義な1日だった。(了)



長浜城



江・浅井三姉妹について語るボランティアガイド



鉄道スクエア 旧舎を模した長浜駅



黒壁ガラス館



曳山博物館

